

投資事業評価調書（新規）

部課室名	農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 板井 丈夫 (太野垣 賢治)	内線	4003 (4016)
------	-------	---------------------	-----------------------------	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業名	事業区間	総事業費	約3億円
		基盤整備促進事業 (一般型)	柳沢地区	内用地補償費	0.2億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
津名郡一宮町柳沢			H15	H15	H18
事業の目的			事業内容		
棚田の小区画不整形な農地を整備し、併せて農道を整備することにより、水稲を中心とした野菜、飼料作物及び畜産の多角経営、並びに農作物の集出荷の合理化を推進し、農業経営の向上を図る。 事業主体：津名郡一宮町			受益面積 24.4 ha 区画整理 4.4 ha (国 55% 県 18% 町 10% 地元 17%) 農道整備 L=998m, W=5.0m (国 55% 県 8% 町 37% 地元 0%)		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	当地区は、水稲を中心とした野菜・畜産の多角経営を行っているが、現況の農地は、小区画・不整形であり、道路も狭小で未整備なため、営農効率が悪く、農業従事者にとって多大な労力が負担となっている。 このような状況の中、ほ場整備と基幹農道整備を併せ行うことにより、機械化や水管理の合理化及び地域農業の拠点施設（JA日の出）への農作物集出荷の合理化を推進し、農業生産性の向上と経営の安定を確保する必要がある。 当地区では、地域活性化のため「菜の花まつり」を開催し、都市住民との交流を促進しており、アクセス道路として、また地域住民の生活道路としても利用できる。				
(2)有効性・効率性	投資効率 1.08、所得償還率 10.8% 投資効率が 1.0 以上であり、事業としての効果が期待できる。 同意率 100.0% 災害時の防災避難所へのアクセス道路として利用できる。				
(3)環境適合性	道路の路側・残地部分を利用し、花壇や低木の植栽を行い、景観に配慮する計画としている。 道路の路盤、アスファルト等についても、再生材を利用する。 排水路流末部の既設石積み水路をそのまま保存し、生態系に配慮した計画としている。				
(4)優先性	周辺地域は、殆ど未整備であり、これらの地域の整備を計画的に実施する必要があり先導的役割を担っている。高齢化が進み急傾斜地域の当地域において、農地の維持管理を図るため、早急な事業取り組みが必要である。				